RBS
RITSUMEIKAN UNIVERSITY
BUSINESS
SCHOOL

立命館大学ビジネススクール
［大学院経営管理研究科］
経営管理専攻

Guide 2024

RBS
RITSUMEIKAN UNIVERSITY
BUSINESS
SCHOOL

立命館大学ビジネススクール（大学院経営管理研究科）

［お問い合わせ］
立命館大学 OIC 独立研究科事務室（経営管理研究科事務局）
〒567-8570 大阪府茨木市岩倉町 2-150
TEL: 072-665-2101　FAX: 072-665-2109　E-mail: rbs-ras@st.ritsumei.ac.jp

観光に、MBAの力を。

2024年4月「観光マネジメント専攻」設置

2025年の万博に向けて大きく変わろうとしている大阪・関西を拠点に、
今後ますますの成長が期待される観光産業の各分野で
イノベーションの担い手となる「ビジネスを創造するリーダー」を全国に、そして世界に輩出します。
宿泊業その他の観光企業や観光関連企業の経営者および
観光地域づくり法人（DMO）を始めとする
観光非営利組織の経営者・経営管理人材、観光産業で起業を目指す人材、
観光産業における経営支援人材の育成にフォーカスしたカリキュラムを提供します。

概 要

名称	観光マネジメント専攻	
学位	観光経営修士(専門職)	
プログラム	観光事業マネジメントプログラム(社会人)	観光事業キャリア形成プログラム(学部卒生)
入学定員	40名	30名
キャンパス	大阪梅田キャンパス	大阪いばらきキャンパス(OIC)

※観光マネジメント専攻の詳細は、経営管理研究科のHPで案内します。

ビジネスを創造するリーダーとして、未来を切り拓く人生に挑戦しましょう

地球には今80億を超える人々が生活しています。人と人をつなぐ様々なネットワークは著しい発展を遂げ、グローバル化が進展してきました。しかし、同時に世界中で多くの様々な亀裂と分断が見られ、グローバル化は大きな岐路に立たされています。また、地球環境悪化への対応としてのカーボンニュートラルと、人々の認識と仕事と生活を大きく変えうるデジタルトランスフォーメーションの進展が重要な課題となっています。こうした背景からも、SDGsやESG投資への真摯な対応が求められているのです。

ところで、高等教育の普及は人々のキャリアを豊かにする原動力となっています。中でもMBAの需要はますます高まっています。マネジメントに携わるビジネスリーダーの羅針盤として、あるいは世界に通じる共通言語として、MBAの実践知がとても役立つからです。日本でも、意欲あるビジネスパーソンがMBAで学んでいます。それぞれが、希望部署への配属、昇格昇進、転職や就職、起業、事業承継など、人生の転機にあたって、飛躍を求めています。

MBA教育では、ビジネスを体系的に学び、能力を高めることを通じて、自らのキャリアを客観的に見つめ直すことができます。また、異業種・異階層の人々との交流では、明日を拓く発想や気づきが数多く得られます。ビジネスを創造する未来設計図を描き、実践知を磨く場が、ビジネススクールなのです。

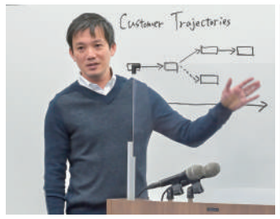
立命館大学ビジネススクール（RBS）は、実務界の英知と学術を基盤とした論理によって、ビジネスの創造を目指す人々を積極的に応援しています。時機を逃さずRBSの扉を開いてください。

すでに多くの修了生が、それぞれのフィールドでビジネスの創造に挑戦し、期待を超える成果をあげています。RBSは、貴方との実りある出会いを期待します。

立命館大学ビジネススクール
（大学院経営管理研究科）
研究科長
肥塚 浩

ビジネスを創造するリーダーを育成 するカリキュラム

RBSのカリキュラムは、ビジネスを創造する力の養成を意図しています。
実務経験に応じて分けられた経営管理専攻の2つのプログラム
―「マネジメントプログラム」と「キャリア形成プログラム」―では、
それぞれ段階的な学修ができるようになっています。
修了時には経営修士（専門職）［Master of Business Administration（MBA）］の学位を授与します。



RITSUMEIKAN UNIVERSITY BUSINESS SCHOOL

マネジメントプログラム

Management Development Unit

ビジネスパーソン対象 ｜ 大阪梅田キャンパスにて開講

P8

キャリア形成プログラム

Career Development Unit

学部卒業生（留学生含む）対象 ｜ 大阪いばらきキャンパスにて開講

P9

Feature 01

経営を基本から学ぶ

MBAのグローバルスタンダードに準拠したコア科目で経営について一から学び、より応用的な選択科目、そして多彩な特殊講義を受講していきます。入学後に履修アドバイザーから履修方針について個別アドバイスを受けます。初めて経営を学ぶ人も不安なく学修を進められます。

Feature 02

実践力を養う授業

知識を身につけるだけでなく、実践のために必要なスキルやマインドセットを修得します。多彩な実務家教員からは多くの刺激が得られます。授業ではグループワークやプレゼンテーションの機会が多く、常に真剣勝負が求められます。

Feature 03

問題関心を掘り下げる

「課題研究」（ゼミ）では、担当教員による集団指導・個人指導の下、自らのキャリアに関わるテーマについて研究を行います。研究の課題と内容が重要であり、最終レポートは必ずしも学術的な形式に沿う必要はありません。

Feature 04

生涯にわたるネットワーク

共に学んだ仲間との関係は一生の財産となります。修了生の交流組織によるイベントやゼミ同窓会の活動も盛んに企画されています。研修生として登録すれば、図書館、学内データベース、電子メールを修了後も使用できます。

［標準修業年限］ 2年（在学年限最長4年）

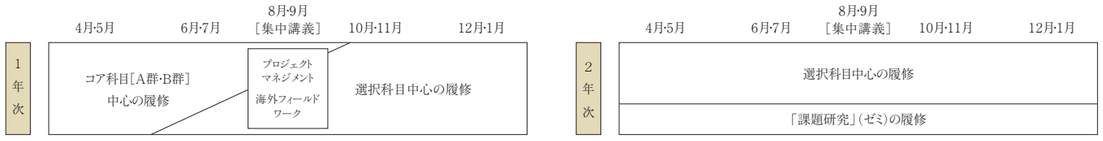
［キャンパス別開講時間］ ※2024年度から下記時間割に変更予定

		1・2限	3・4限	5・6限	6・7限
大阪梅田キャンパス	平日	—	—	—	18:30～21:55
	土	9:10～12:35	13:35～17:00	18:00～21:25	—
	日	9:10～12:35	13:35～17:00	—	—
大阪いばらきキャンパス	平日	9:00～12:30	13:20～16:50	—	—

大阪梅田キャンパス　大阪市北区小松原町2-4 大阪富国生命ビル5階（JR「大阪駅」から徒歩約5分）
大阪いばらきキャンパス　茨木市岩倉町2-150（JR「茨木駅」から徒歩約5分）

大阪梅田キャンパス
大阪いばらきキャンパス

［クォーター制］ 約2ヶ月7回の講義で1科目を履修します（200分×7回＝2単位）※2024年度から現行の180分×8回の授業回数を200分×7回に変更予定



RBSを選んだ理由

一人ひとりが異なった目的・理由でRBSを選びます。
共通しているのは、自己成長を遂げたいという強い気持ちです。
RBSのプログラムで、新しいステージへ進むための確かな力を身につけてください。

Case 01

古澤 彩子 さん　マネジメントプログラム

南海化学株式会社 監査部 リーダー

私は、現在、子会社を含む内部監査を担当しています。これまで総務、人事、広報業務などに携わってきました。自分に不足している知識の習得と将来のキャリアの方向性を考え直そうと思いMBA取得を志しました。RBSの魅力は先生方との距離が近いこと、様々なバックグラウンドを持つ院生との出会いです。共に刺激しあいながら実践的な力を身に付けることができます。RBSで学んだ知識を活かし創造力溢れるビジネスリーダーを目指します。

Case 02

小鑓 真吾 さん　マネジメントプログラム

NISSHA株式会社
ナイテック・プレシジョン・アンド・テクノロジーズ株式会社 生産統括部 部長

私は、ものづくりの最前線でリーンオペレーションの追求を行っています。不確実性が高く非連続的に変化する状況下、製造業のものづくりは益々高度化しています。論理的かつ変革を起こすための判断と行動を身に付け、経営に関する幅広い知識を体系的に学びたい思いからRBSへの入学を決意しました。RBSでは多様なバックグラウンドを持つ方から様々な気づきを得て、創造力が養われ、日々成長を体感できます。理論と実践を磨き、より高いレベルのビジネスリーダーを目指します。

Case 03

ZHAO Xin さん　キャリア形成プログラム

上海師範大学 対外中国語学部出身

国際的な視野を身に付け、グローバル化に適応できる人材になろうという志を持ってRBSへの進学を決めました。学部時代と違い、RBSは実践力の養成を重視し、具体的なケースを自分なりに考えて分析することが多くあります。異文化マネジメントの授業では、チームで協力して課題を完成させ、異文化の魅力を体験し、多国籍企業での働き方を勉強しました。今後、RBSでの学びを活かし、社会に貢献できる優秀なビジネスパーソンになれるよう努力します。

Case 04

梶山 愛華 さん　キャリア形成プログラム

関西外国語大学 外国語学部出身

学部時代、マーケティングや経営学の授業などを通し「人はどのようなものに価値を置くのか」に疑問を抱き、RBSへの進学を希望しました。RBSは、様々なバックグラウンドを持つ院生とディスカッションができるのが魅力です。デジタルマーケティングの授業では、業界の最新情報や専門的な知識を学ぶことができました。統計学やマーケティングリサーチの授業も興味深いものでした。将来はデータサイエンティストになりたいと考えています。

マネジメントプログラム　Management Development Unit

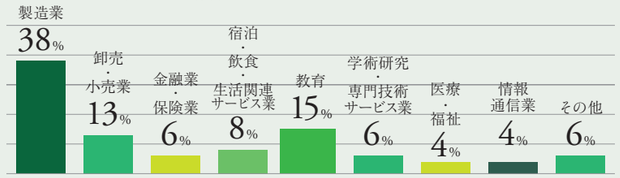
ビジネスを創造するリーダーに必要な能力を身につけるためのプログラムです。大学卒業後、勤続3年以上の方を対象としています。経営者や経営幹部を志向する方だけでなく、自分らしいキャリアを構築したい方や、起業を検討している方も歓迎します。授業は大阪梅田キャンパスにて、平日夜間と土日に開講。また、仕事の関係等でキャンパスでの授業に直接参加できない場合には、オンラインを利用した同時配信の授業もあり、柔軟に履修することが可能です。

［在学生の年齢］

20代	30代	40代	50代	60代
14%	31%	33%	14%	8%

※小数点以下第1位を四捨五入しています。

［在学生の所属業界の割合］



修了生の声

私の入学動機は、私の使命である「経済的、精神的な安心を届けることで、心豊かで平和な社会を実現すること」を高いレベルで実現したいと考えたからです。志ある仲間や先生によって視野が広がり、視座が高まり、様々な視点で多面的・長期的・根本的に考えることができるようになり、確かな成長を実感しています。最近は専門学校の非常勤講師、セミナーの依頼や雑誌の取材依頼など、仕事の幅が広がっています。RBSの一員として誇りを持ち、使命が実現できるよう精進します。

堀尾 尚寛 さん
マニュライフ・ファイナンシャル・アドバイザーズ株式会社 IFA
泰勝寺 副住職

修了生の声

RBSへの入学のきっかけはキャリアアップのためです。経験だけで得てきた知識を体系的に学べたことは人生の大きな転機となりました。RBSには研究者の先生のみならず実務家の先生が多数在籍していることから、知識の習得はもちろん、グループワークなどを通して、実践的な学びを得ることができるのが最大の魅力です。院生や先生方とディスカッションを重ねることで手に入れた生きた学びは、中小企業支援においても即活用可能なものばかりです。

中内 由佳 さん
独立行政法人中小企業基盤整備機構
中小企業アドバイザー

キャリア形成プログラム　Career Development Unit

将来ビジネスを創造するリーダーになるための力量を向上させるプログラムです。主に大学卒業後、勤続3年未満の方を対象としています。日本人学生と留学生が隔てなく切磋琢磨しています。授業は原則として大阪いばらきキャンパスにて平日昼間に開講。特殊講義科目は、主に平日夜間や土日に大阪梅田キャンパスにて開講。マネジメントプログラムの院生と一緒に授業を受けることができ、多くの刺激が得られます。

［過去3年間の本プログラム修了生の主な就職先企業名］

- アクセンチュア（株）
- アビームコンサルティング（株）
- キンドリルジャパン（株）
- 国税専門官
- 小林製薬（株）
- 清水建設（株）
- （株）大和総研
- 南海電気鉄道（株）
- 日本アイ・ビー・エム（株）
- 日本アイ・ビー・エムデジタルサービス（株）
- （株）博報堂
- （株）船井総合研究所
- （株）みずほ銀行
- （株）パソナグループ
- パナソニック インダストリー（株）
- （株）ポーラ
- 森松工業（株）
- （株）LIXIL グループ

（50音順）

修了生の声

大学では、ホテルの運営・管理や基礎的なビジネス理論を学びましたが、視野を広げたいと考えRBSに進学しました。学部の頃もよく理論的なディスカッションを行いましたが、RBSはさらに学術的な知識を実務でどう活かしていくかを考える力を求めます。論理的思考とプレゼンテーションの授業では、思考の手法やフレームワーク等を学ぶことで、論理的思考力の土台を身に付けました。RBSでの学びを存分に発揮し、キャリアを築いていきます。

LI Wanwei さん
パナソニック インダストリー株式会社

修了生の声

学部時代、政治、経済、法律、経営を学びましたが、今後は、さらなる専門性が必要と考え、経営のスキルを高めるためRBSを選択しました。学部時代との違いは、実践形式の授業を少人数で受講できることです。産業動態分析の授業では、グループで業界の競争状態を分析しました。少人数のため、担当教授から頻繁に助言をいただくことができ、納得のいく分析ができました。今後はRBSでの学びを活かし、多くの人に求められる人材になりたいと考えています。

松下 沙哉斗 さん
南海電気鉄道株式会社

特色ある学び

フィールドワーク

「都市の時代」とも呼ばれる21世紀において、都市はこれまで以上に経済の核となっていくことが予想されます。魅力ある都市をつくっていくための様々なビジネス実践をマーケティングやマネジメントの観点から実践的に学びます。関係者からのレクチャーや現地視察などを通じて、都市やまちに対するものの見方や課題を発見する力を身につけます。これと並行して、受講生は、それぞれの問題意識に基づき調査プロジェクトを実施し、課題発見と解決策の提示または提言等を行います。なお、2024年度から「海外フィールドワーク」として開講を予定しています。

（協力）千島土地株式会社

受講生の声

この講義は、街の生の声を聞き、それを体感・共感できる貴重な機会となりました。街には、考えたこともない歴史や課題等が数多くあり、様々な気付きを得ることができました。どのような仕事をしていても、軸足を置く地域には街が存在し何らかの影響を受けます。街の歴史や課題を知ることで、仕事の視野が広がると感じました。まちづくりに関するゲストのお話で、開発に関して幅広い見識を得ることができ、思考の幅が拡がったと思います。

郡 誠一 さん
株式会社ケーエスケー
大阪営業部 大阪支店 営業課長

特色ある学び

課題研究

本研究科では各講義科目で修得した様々な知識や能力を応用して、「課題研究」に取り組むことを重視していることから、この科目を必修としています。
演習科目である「課題研究」（ゼミ）では、院生のビジネス上やキャリア上における実践的な問題関心と課題を具体的に解決することを研究課題とし、「課題研究レポート」を作成します。
「課題研究」の内容は、実証研究および事例研究のほか、戦略立案、組織設計、新規事業計画、新製品開発、実務課題のソリューション、学術的な観点からの研究等、現在進行中のテーマや自らが構想中のものを取り上げることができます。院生のバックグラウンドや修了後のキャリア形成が多様であることを考慮し、幅広いテーマに対応しています。

過去の課題研究テーマ

- フードサービス業における
  ブランド拡張の成功要因に関する調査
- IPO のパフォーマンス分析
- 伝統的工芸品産業における
  成功事例の一考察
  ―業種と企業の成功要因分析―
- 各種動画プラットフォームの比較による
  動画活用提案
- 「フードツーリズム」と観光振興
  ―中国浙江省湖州での適用可能性を中心に
- 製薬企業の機能変革と今後のキャリア
  ～ MRが目指すべき方向性～
- 脱炭素時代への新ビジネスの創造
  ～ガス空調会社の今後の可能性～

教員からのメッセージ

牧田 正裕 教授

ビジネスを創造し、キャリアを切り拓く知的探求

RBSの院生は、それまでの経験の中で培った課題意識や将来のキャリアに関するテーマをもって入学します。それぞれの課題やテーマにフォーカスし、解決に向けた知的探求のための演習科目が課題研究（ゼミ）です。ゼミでは指導教員の専門的見地に基づくアドバイスだけでなく、仲間たちとの議論を通じて様々な気づきやヒントを得ることができます。RBSでの学びを通じて得た知識やスキル・能力、さらにはあなた自身のもつ創造性をフルに動員して、新事業・新製品開発に向けてのプラン策定、自社の第二の創業、業界への提言などに取り組みます。様々な知を統合し、実践的・実用的なソリューションや知見を導き出すところに課題研究の特徴があります。課題研究の内容がそのまま社内で採用され、同時に自身のキャリアアップへと結実した例も少なくありません。

受講生の声

私の研究テーマは、日本の歯科関連企業の存在感を海外でいかに高めるかです。治療のデジタル化などで世界的な同質化が進む中、日本企業の存在感が低下しているため提案を行いたいと考えました。先生のアドバイスや学友との議論を通じ、様々な視点で課題を捉え直すことができ、さらにRBSで学んだ知識を活かして検証し、学びを深めることができました。研究を通して知識と実務を繋げる経験ができたことは今後のキャリアに大いに役立つと考えています。

十河 景一 さん
株式会社モリタ

経営管理専攻開講科目一覧　(2024年度予定)

コア科目

企業経営の基礎的素養を身につけるための科目群。

［A群］

競争戦略
環境変化を把握し、企業を成長に導く方向性について基本的理解を図る。

組織行動
動機、個性、満足、学習、文化などから組織の特徴とその中での人間行動について学ぶ。

マーケティング
顧客に価値を創造、伝達、提供し、組織等に有益になる顧客との関係性について学ぶ。

アカウンティング
企業会計の制度と理論について基本を理解し、その変遷と最新動向を学ぶ。

ファイナンス
金融制度・市場・商品の仕組みを理解し、ファイナンスの基礎理論を修得する。

ビジネス創造
イノベーションの重要性と新しいビジネスの事業化や起業についての理解を図る。

［B群］

国際経営
国境を越えて活動する企業の開発、購買、生産、販売、サービス等の特徴について学ぶ。

リーダーシップ
複雑な人間関係を同じベクトルに向ける組織のリーダーの役割と機能について学ぶ。

サービス イノベーション
個人や組織に提供するサービスとその組織を変革する仕組みについて学ぶ。

企業倫理と サステイナブル経営
企業倫理に関する経営上の諸課題と持続可能な社会における経営のあり方について理解を図る。

ビジネスエコノミクス
企業行動を理解する上で必要とされる経済学の概念・理論とその応用について学ぶ。

統計・データ分析
ビジネスの現場で必要とされる統計とデータ分析のスキルや手法を学ぶ。

選択科目

企業経営の各分野の専門的な力量を形成する科目群。

［マネジメントプログラム］

戦略ユニット

ビジネスモデル構築
持続可能な競争優位を実現するビジネスの枠組みの構築方法を実践的に学ぶ。

グローバルビジネスの実践
国境を超えて展開されるビジネス活動の実際について、事例を通じて学ぶ。

新規事業開発
企業の経営資源を活用し、社会のニーズに応える新規事業の創造について実践的に学ぶ。

技術・オペレーションの マネジメント
製品やサービスの開発・製造における技術と組織の変革マネジメントを実践的に学ぶ。

戦略的意思決定
企業の中長期的発展に非常に重要な影響を与える意思決定について実践的に学ぶ。

ICT ビジネス戦略
情報通信技術を事業展開にいかに戦略的に活用するかを事例に基づき実践的に学ぶ。

国際経営戦略
各国市場の共通性や異質性、各国の制度を踏まえた経営戦略について実践的に学ぶ。

組織ユニット

人的資源管理
人の能力を開発し、動機づけし、安心して働ける組織のマネジメントについて学ぶ。

キャリア開発
キャリア自律を行う個人のマネジメント能力を高める制度と実務について学ぶ。

異文化マネジメント
異なる文化を背景に持つ人々に対する組織マネジメントの方法を実践的に学ぶ。

コーチング
クライアントの気づきと決断力を高める学習を支援する方法について実践的に学ぶ。

コーポレートガバナンス
企業の戦略的意思決定をモニターし、コントロールするメカニズムとしての企業統治について学ぶ。

ファミリービジネス
ファミリー企業の所有と事業と家族の関係性や事業継承課題について実践的に学ぶ。

マーケティングユニット

マーケティングリサーチ
顧客の実態やニーズ等に関するデータを収集し、分析する手法について実践的に学ぶ。

消費者行動
製品やサービスの市場における消費者や意思決定者の行動について実践的に学ぶ。

商品開発
企画段階のイメージやアイデアを実際の商品という形にする方法について実践的に学ぶ。

ブランドマネジメント
顧客の企業、商品、サービスに対する信用や価値を高める経営管理について実践的に学ぶ。

デジタルマーケティング
デジタル技術やデータを用いて行うマーケティング手法について実践的に学ぶ。

会計ファイナンスユニット

財務会計
財務諸表の作成の基礎となる会計基準とその実務への効果的適用について理解を深める。

M＆A戦略
企業価値向上のための資金調達やM&Aなどの手法について理解を深める。

管理会計
経営管理のための会計としての管理会計の考え方や技法について事例を通じて実践的に学ぶ。

ストラクチャード ファイナンス
証券化を含むストラクチャードファイナンスの理論と手法について修得する。

企業分析
財務諸表等から企業業績を正しく評価し、経営課題の解決策を導く能力を修得する。

投資戦略
株式や債券などの投資戦略について理解を深め、分析・運用など実践的対応を修得する。

コーポレートファイナンス
企業の資金調達に関する基礎理論や企業価値評価について理解を深める。

ベンチャーファイナンス
スタートアップなど新規事業における資金調達に関する主要論点について理解を図る。

ビジネス共通ユニット

国際政治経済
国際貿易、開発、金融、市場、多国籍企業、国家、国際組織や制度等について理解を図る。

ビジネス法務
契約、コンプライアンス、苦情処理、訴訟対応、M&A等の企業の法務関係について学ぶ。

論理的思考と プレゼンテーション
物事を体系的に把握し、筋道を立てて考え、聞き手に分かりやすく伝える表現力を修得する。

Business Communication
ビジネスで必要とされる実用的かつ効果的な英語の文書・口頭表現について学ぶ。

Business Negotiation
英語でのビジネス交渉の現場で必要となる文書・口頭表現について実践的に学ぶ。

［キャリア形成プログラム］

ビジネスユニット

ビジネスモデル構築
持続可能な競争優位を実現するビジネスの枠組みの構築方法を実践的に学ぶ。

コーポレートガバナンス
企業の戦略的意思決定をモニターし、コントロールするメカニズムとしての企業統治について学ぶ。

消費者行動
製品やサービスの市場における消費者や意思決定者の行動について実践的に学ぶ。

新規事業開発
企業の経営資源を活用し、社会のニーズに応える新規事業の創造について実践的に学ぶ。

ファミリービジネス
ファミリー企業の所有と事業と家族の関係性や事業継承課題について実践的に学ぶ。

商品開発
企画段階のイメージやアイデアを実際の商品という形にする方法について実践的に学ぶ。

技術・オペレーションの マネジメント
製品やサービスの開発・製造における技術と組織の変革マネジメントを実践的に学ぶ。

マーケティングリサーチ
顧客の実態やニーズ等に関するデータを収集し、分析する手法について実践的に学ぶ。

デジタルマーケティング
デジタル技術やデータを用いて行うマーケティング手法について実践的に学ぶ。

異文化マネジメント
異なる文化を背景に持つ人々に対する組織マネジメントの方法を実践的に学ぶ。

会計ファイナンスユニット

財務会計
財務諸表の作成の基礎となる会計基準とその実務への効果的適用について理解を深める。

コーポレートファイナンス
企業の資金調達と運用に関する基礎理論や企業価値評価について理解を深める。

管理会計
経営管理のための会計としての管理会計の考え方や技法について事例を通じて実践的に学ぶ。

M＆A戦略と 企業価値評価
企業戦略におけるM&Aや企業価値の評価手法についての基本的事項を理解する。

企業分析
財務諸表等から企業業績を正しく評価し、経営課題の解決策を導く能力を修得する。

投資戦略
株式や債券などの投資戦略について理解を深め、分析・運用など実践的対応を修得する。

キャリア形成共通ユニット

国際政治経済
国際貿易、開発、金融、市場、多国籍企業、国家、国際組織や制度等について理解を図る。

論理的思考と プレゼンテーション
物事を体系的に把握し、筋道を立てて考え、聞き手に分かりやすく伝える表現力を修得する。

産業動態分析
現代ビジネスにおける産業とその相互関係の変化について理解を深める。

Business Communication
ビジネスで必要とされる実用的かつ効果的な英語の文書・口頭表現について学ぶ。

日本の産業と企業
日本の産業と企業の発展動向を踏まえ、現状と課題について理解を図る。

Business Negotiation
英語でのビジネス交渉の現場で必要となる文書・口頭表現について実践的に学ぶ。

キャリア開発
自身のキャリア自律を目指して、マネジメント能力を高める制度と実務について学ぶ。

［特殊講義］

経営管理特殊講義
ビジネスや企業経営の最新動向について実践的に学ぶ。

マネジメント特殊講義
ビジネスや企業経営の最新動向ついて、より専門的かつ実践的に学ぶ。

キャリア形成特殊講義
ビジネスや企業経営の最新動向について、自身のキャリア形成に結びつけて学ぶ。

実習科目

企業や街で行う アクティブラーニング。

プロジェクトマネジメント
企業が直面している経営上の課題について検討を行い、解決策の提示を行う。

海外フィールドワーク
海外における事業環境や経営実践の調査を通じて、課題発見力の向上を図る。

演習科目

自らの興味関心やキャリアに応じた課題研究に取り組む。

課題研究Ⅰ
演習形式にて院生が課題研究を進めるための必要な考え方、研究方法を学ぶ。

課題研究Ⅱ
情報交換や論議を重ね、課題研究テーマへの理解を深めつつレポート等の成果物作成を進める。

※詳細は経営管理研究科HPで確認してください。

教員紹介 **専任教員** （2023年度）

※経歴は2023年4月現在

穴井 宏和 教授

■専門分野

ファイナンス、起業家金融、
アントレプレナーシップ

■主な経歴

1992年3月東海大学大学院工学研究科博士前期課程修了、ゴールドマン・サックス証券、J.P.モルガン証券で日本株シニアアナリスト。一橋大学大学院国際企業戦略研究科（現・経営管理研究科）修了（MBA in Finance）、東京大学大学院 新領域創成科学研究科博士後期課程修了（博士、環境学）。

大島 知典 准教授

■専門分野

サービスマネジメント、
観光マーケティング

■主な経歴

2017年立命館大学大学院経営学研究科企業経営専攻博士後期課程修了、博士（経営学）取得。神戸山手大学現代社会学部観光学科観光文化学科専任講師を経て、2018～22年阪南大学流通学部流通学科准教授。現在、一般社団法人日本観光経営学会理事、東北亜観光学会理事、日本観光ホスピタリティ教育学会幹事。

奥村 陽一 教授

■専門分野

会計学、企業分析

■主な経歴

1986年立命館大学大学院経営学研究科博士課程後期課程単位取得満期退学、1988年経営学部助教授、1996年同教授を経て、2006年より現職。2012～17年経営管理研究科長、2015～17年医療経営研究センター長。2020年学校法人立命館常務理事（～現在）。日本会計研究学会、会計理論学会、ドラッカー学会等に参加。2013年～19年大津市公共施設マネジメント推進委員会委員長、2017年～20年立命館大学校友会副会長など学外活動に従事。

肥塚 浩 教授

■専門分野

経営戦略、介護経営

■主な経歴

1990年立命館大学大学院経済学研究科博士後期課程単位修得退学、1998年博士（経営学、立命館大学）。1992年以降、島根大学、立命館大学、立命館アジア太平洋大学（APU）に所属。この間、APU教学部副部長、立命館副総長・立命館大学副学長、総長特別補佐等を歴任。現在、経営管理研究科研究科長、医療介護経営研究センター長、産業学会理事、アジア経営学会理事、日本介護経営学会理事、ドラッカー学会理事。

永田 稔 教授

■専門分野

人的資源管理、異文化マネジメント、
キャリア開発

■主な経歴

1990年一橋大学社会学部卒業。1997年カリフォルニア大学ロスアンジェルス校（UCLA）アンダーソンスクールにてMBA取得。松下電器産業、（株）マッキンゼーアンドカンパニー、ワトソンワイアット（現ウィリスタワーズワトソン）を経て、現在は（株）ヒトラボジェイピー代表取締役として組織・人事コンサルティング業務に従事。

橋本 正明 教授

■専門分野

ファイナンス

■主な経歴

早稲田大学卒業後、1982年に山一証券（株）入社。投資開発部等に在籍。1998年退職後、東海投信投資顧問（株）を経て2014年までアーティス（株）に在籍。副社長兼（株）アーティス総研社長を歴任。2015年（株）フィナンシャル・ラボ設立・代表取締役社長（～現在）。現在、経営管理研究科副研究科長。

前田 東岐 准教授

■専門分野

組織論、経営管理論

■主な経歴

1997年立命館大学大学院経営学研究科博士課程後期課程修了。博士（経営学、立命館大学）。1997年小樽商科大学助教授、2009年より現職。北海道国土利用計画審議会、北海道政策評価委員会、北海道地価調査委員会などの委員を歴任。主な著作は『現代企業社会における個人の自律性―組織と個人の共利共生に向けて―』（共著・文眞堂）、『MBAのためのケース分析』（共著・同文舘出版）。

牧田 正裕 教授

■専門分野

社会制度としての会計、
サービスマネジメント、観光マネジメント

■主な経歴

1996年9月立命館大学大学院経営学研究科博士後期課程中退。小樽商科大学商学部助手、立命館大学政策科学部専任講師を経て、2000年立命館アジア太平洋大学（APU）アジア太平洋マネジメント学部（現国際経営学部）専任講師、02年同助教授、08年同教授。2003年博士（経営学、立命館大学）。現在、経営管理研究科副研究科長、立命館アカデミックセンター副センター長、株式会社クレオテック監査役（非常勤）。

小菅 竜介 教授

■専門分野

サービスマネジメント、マーケティング

■主な経歴

東京大学経済学部卒。同大学大学院経済学研究科修士課程および博士課程を修了し、2011年に博士号（経済学）取得。日本学術振興会特別研究員、東京大学ものづくり経営研究センター特任研究員、ストックホルム商科大学マネジメント・組織学科リサーチフェローを歴任。

高橋 慶治 教授

■専門分野

コーチング、キャリア開発

■主な経歴

1986年駒澤大学大学院心理学専攻修士課程修了、2006年人間総合科学大学大学院人間科学専攻修士課程修了。柴田メンタルクリニック臨床心理士、（株）脳力開発研究所研究員、（株）ヒューマックス取締役、サンフレッチェ広島メンタル顧問、日本オリンピック委員会強化スタッフを歴任、スポーツ、企業の分野で多くの指導、コンサルティングを行う。現在は、（同）人間開発研究所代表社員。

谷口 学 教授

■専門分野

財務会計、管理会計

■主な経歴

1998年神戸大学大学院経営学研究科博士前期課程修了。1997年太田昭和監査法人に入所。監査業務、株式公開支援、財務デューデリジェンスなどの業務に従事。2003年三洋電機（株）入社。本社戦略部門にて戦略立案業務、再生計画の策定、M&A業務に従事。2014年損害保険ジャパン（株）顧問。2017～21年立命館大学大学院経営管理研究科教授。2021年（株）京都新聞ホールディングス常務取締役。現在は法定監査のほか、コンサルティング業務などを行う。2023年より現職。

鳥山 正博 教授

■専門分野

マーケティング戦略、
マーケティングリサーチ、
エージェントベースシミュレーション

■主な経歴

国際基督教大学卒（1983年）、ノースウェスタン大学ケロッグ校MBA（1988年）、東京工業大学大学院修了、工学博士（2009年）。2011年まで（株）野村総合研究所にて経営コンサルティングに従事。2019年度はノースウェスタン大学ケロッグ校にて客員研究員。マーケティングリサーチ・メディア・小売領域で特許出願多数。

水野 由香里 教授

■専門分野

技術経営、競争戦略

■主な経歴

2005年一橋大学大学院商学研究科博士後期課程単位修得退学後、2005年独立行政法人中小企業基盤整備機構リサーチャー、2007年西武文理大学サービス経営学部専任講師、同准教授、2016年国士舘大学経営学部准教授、同教授を経て、現在に至る。2019年博士（経営学、東北大学）。2018年中小企業大学校東京校・関西校「高度実践型経営力強化コース」講師（現在に至る）。2021年中小企業庁中小PMIガイドライン策定小委員会検討委員。

山本 真司 教授

■専門分野

企業戦略、戦略経営論、
戦略コンサルティング論

■主な経歴

慶應義塾大学経済学部卒業、1987年シカゴ大学、シカゴ・ブース・スクール修了（MBA with Honors）、ボストン・コンサルティング・グループ、A.T.カーニー、アジア戦略グループ代表、ベイン・アンド・カンパニー・ジャパン東京事務所代表パートナーを歴任。約30年にわたる企業戦略コンサルティング経験。2012年まで早稲田大学スポーツ科学大学院客員教授、2011～21年経営管理研究科客員教授。2022年より現職。

教員紹介 客員教員・非常勤講師・他学部所属専任教員 (2023年度)

※現職・経歴等は2023年4月現在

客員教員

岡本 薫明

[現職] 日本たばこ産業(株)副会長

[主な経歴・業績] 1983年大蔵省(現財務省)入省後、主に国の予算編成等財政に関わる業務を担当。金融庁では金融危機対応室長として金融再生に従事。財務省大臣官房長、主計局長、財務事務次官を歴任し、2020年に退官後、現職。

木越 純

[現職] バンク・オブ・アメリカ・エヌ・エイ東京支店長

[担当科目] 内外金融機関のビジネス戦略

[主な経歴・業績] 国際基督教大学卒業後、東京銀行(現MUFG)に入行。東京・ロンドン両拠点で、コーポレートファイナンス、資本市場業務等に従事。JPモルガン東京にて資本市場本部長・法人営業本部長を歴任、2014年から現職。ロンドン・ビジネス・スクールMBA。武蔵野美術大学大学院MA(造形構想)。

高橋 秀夫

[現職] (株)スリー・エムズ・コンサルティング 代表取締役、ブルーガ・キャピタル(株)マネージングパートナー

[担当科目] 投資戦略

[主な経歴・業績] 旧日本長期信用銀行、米系戦略コンサルティング会社であるA.T.カーニー副社長、企業再生コンサルティング会社アリックスパートナーズ・アジア・エルエルシー、マネージング・ディレクター。

千代田 邦夫

[現職] 公認会計士、MS&ADホールディングス 社外監査役

[主な経歴・業績] 立命館大学経営学部長、立命館大学大学院経営管理研究科研究科長を歴任後、熊本学園大学大学院教授、早稲田大学大学院教授を歴任。金融庁公認会計士・監査審査会会長(2016年3月末退任)。『アメリカ監査論』(日経・経済図書文化賞、中央経済社)他著書多数。

陳 世宗

[現職] (株)宏善代表取締役会長、(株)惠普独立取締役兼報酬委員および審査委員、財団法人犯罪矯正發展基金會理事、国立台北商業大学非常勤講師、立命館アジア太平洋大学客員教授、日華協会台湾代表

[主な経歴・業績] (株)華夏投資総稽核役、(株)中國ラジオ放送取締役、(株)中央映画事業取締役、(株)中央日報社総稽核役・監査役、国立空中大学非常勤講師、中国・中南大学非常勤講師、財政部銀行局専員、彰化県工商發展投資策進会幹事長。主な著書(A Study on Evaluation of Enterprise Value and Corporate Performance)。財団法人中華民國會計研究發展基金會。

西本 恵子

[現職] 国際会議協会(ICCA)アジアパシフィック部会担当理事

[担当科目] MICEマーケティング

[主な経歴・業績] 20年にわたる国際会議・MICE実務家のキャリアを経て、京都大学で博士号(経営科学)を取得。国際会議協会(ICCA)ではアジアパシフィック部会担当理事を務めるほか、アジア唯一のアカデミア委員として、DMO・MICE施設・プランナーを対象とした国際認証制度ICCASkillsの設計・監修に携わる。

濱田 初美

[現職] 東京理科大学 上席特任教授

[主な経歴・業績] 山一證券を経てソニー入社。中国戦略担当部長・IS管理部長・半導体企画部長、研究所取締役を歴任。新規事業参入・M&A・CEO支援に携わる。本研究科発足時より教授就任。濱田ゼミから上場企業役員6名を輩出。17～21年度学校法人立命館 理事補佐。

早野 潔

[現職] (株)凛研究所 経営管理室長

[担当科目] 企業分析

[主な経歴・業績] 東京大学経済学部卒業後、三井物産(株)に入社。財務、経理、リスク管理業務等に従事。子会社の非常勤監査役を歴任。2023年より現職。早稲田大学大学院ファイナンス研究科MBA。

増山 美佳

[現職] 増山&Company合同会社 代表社員社長、サントリー食品インターナショナル(株)社外取締役、コクヨ(株)社外取締役、鴻池運輸(株)社外取締役、メットライフ生命(株)社外取締役

[担当科目] コーポレートガバナンス

[主な経歴・業績] 日本銀行 外国局、松山支店、調査統計局で勤務後、Cap Gemini Sogeti 本社International Marketing Director(在仏)、ジェミニ・コンサルティング・ジャパン、エゴンゼンダー(株)パートナーを歴任。コーポレートガバナンス及び経営人材の招聘、育成に深く携わる。INSEAD(インシアード) MBA。

本橋 潤子

[現職] 産業能率大学経営学部准教授、中央大学大学院戦略経営研究科兼任講師

[担当科目] 企業倫理

[主な経歴・業績] お茶の水女子大学文教育学部卒業後、(学)産業能率大学総合研究所に入職。人材開発及び企業倫理・コンプライアンス・CSR推進に係るコンサルティング業務に従事。2019年慶應義塾大学大学院商学研究科後期博士課程単位取得退学。2021年博士(商学、慶應義塾大学)。

林 家彬

[現職] 中国国務院発展研究センター研究員

[主な経歴・業績] 清華大学卒業、東京大学大学院工学研究科博士後期課程修了、工学博士。国際連合地域開発センター中国プロジェクト担当、中国国務院発展研究センター副研究員を経て、現職に就任。中国城郷発展国際交流協会副会長、中日友好協会理事、中国発展研究基金会理事などの公職を担当。訳書「戦後日本公害史論」等。

非常勤講師

池田 吉成

[現職] (医)和風会 法人統括本部長、経営コンサルタント、前(株)企業再生支援機構シニアディレクター

[担当科目] 論理的思考とプレゼンテーション、医療経営

太田原 準

[現職] 同志社大学商学部商学科教授

[担当科目] 産業動態分析

古村 公久

[現職] 京都産業大学経営学部准教授、公認会計士古村公久事務所代表

[担当科目] 企業倫理

永井 隼人

[現職] 和歌山大学観光学部准教授

[担当科目] ディスティネーションマネジメント

波江野 武

[現職] デロイト トーマツ コンサルティング(同) 執行役員

[担当科目] 統計学

水野 一郎

[現職] 関西大学商学部教授

[担当科目] アカウンティング

矢島 彩子

[現職] (株)オージス総研行動観察リフレーム本部コンサルティング企画開発部、交通心理士、産業カウンセラー

[担当科目] 消費者行動

稲垣 誠二

[現職] (株)SIAF代表取締役、(公社)滋賀レイクスターズ監事、稲垣誠二公認会計士事務所代表

[担当科目] アカウンティング

栢木 紀哉

[現職] 龍谷大学経営学部准教授

[担当科目] 統計学

須方 研詞

[現職] インタートラスト・マネージメント(株)代表取締役・経営コンサルタント

[担当科目] 商品開発

中田 博之

[現職] EYストラテジー・アンド・コンサルティング(株)公共・社会インフラユニットパートナー

[担当科目] 論理的思考とプレゼンテーション

橋本 良子

[現職] 事業構想大学院大学事業構想研究科教授 博士(経営学)、(株)アテクト監査役

[担当科目] 事業創造、ビジネスプラン

水野 成容

[現職] 京都リサーチパーク(株)参与

[担当科目] アントレプレナーシップ

横山 健一郎

[現職] (株)WEFT代表取締役、(一社)Y's Associates代表理事

[担当科目] ホテル・リゾート企業のマネジメント

井上 博

[現職] 阪南大学流通学部教授、阪南大学大学院企業情報研究科教授

[担当科目] 国際政治経済

木村 まさみ

[現職] 武庫川女子大学英語グローバル学科非常勤講師

[担当科目] ビジネス英語

田端 博之

[現職] 田端税理士・公認会計士事務所代表、(株)NJHD社外監査役

[担当科目] 租税法

西田 和倫

[現職] 西田公認会計士事務所代表

[担当科目] 企業分析

古沢 昌之

[現職] 近畿大学経営学部教授・近畿大学大学院商学研究科教授

[担当科目] 異文化マネジメント

光山 誠

[現職] (医)敬英会理事長、(公社)全国老人保健施設協会人材対策副委員長、MBA、歯科医師(歯学博士)

[担当科目] 介護経営

渡邊 祐介

[現職] (株)PHP研究所取締役、PHP理念経営研究センター代表

[担当科目] アントレプレナーシップ

他学部所属専任教員

石崎 祥之

[現職] 立命館大学経営学部教授

[担当科目] 旅館経営

瀧 博

[現職] 立命館大学経営学部教授

[担当科目] コーポレートガバナンス

中本 悟

[現職] 立命館大学経済学部特任教授

[担当科目] 国際政治経済

教育課程連携協議会

専門職大学院設置基準により、教育課程連携協議会を設置しています。
人材育成に高い見識をお持ちの各位から、教育課程の編成や実施、
授業科目の開発や実施に関して、意見や指摘をいただき、
次回の協議会において進捗に対して評価いただいています。

会　長:株式会社安藤佳則事務所 代表取締役社長 安藤 佳則 氏

委　員:NISSHA株式会社 代表取締役社長 兼 最高経営責任者 鈴木 順也 氏
学校法人大和学園 理事長 田中 誠二 氏
株式会社ボードアドバイザーズ 代表取締役社長 佃 秀昭 氏
CVCキャピタルパートナーズ日本法人 最高顧問 藤森 義明 氏
立命館大学校友会 副会長 森川 典子 氏
立命館大学 副学長 野口 義文 氏

※2022年12月開催時

人材育成目的と3つのポリシー

本研究科の人材育成目的、学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)、教育課程編成方針(カリキュラム・ポリシー)、入学者受入方針(アドミッション・ポリシー)は、本研究科ホームページに掲載しています。

https://www.ritsumei.ac.jp/mba/introduce/mission.html/

入学試験の概要(2024年4月入学)

詳細は必ず「入学試験要項」にてご確認ください。

「立命館大学大学院 入試情報サイト」の「入試情報」のページでご確認いただけます。

● 入学定員…経営管理専攻 80名(マネジメントプログラム40名、キャリア形成プログラム40名)

入学試験日程	出願期間	試験日	合格発表日
9月実施入学試験	2023年7月13日(木) ～7月27日(木)	9月24日(日)	10月12日(木)
11月実施入学試験	2023年10月12日(木) ～10月26日(木)	11月19日(日)	12月7日(木)
2月実施入学試験	2024年1月11日(木) ～1月25日(木)	2月17日(土)	2月29日(木)

対象	入試方式(※2)	募集プログラム	9月実施	11月実施	2月実施
社会人の方(※1)を対象とした入学試験方式	社会人入学試験(一般)	マネジメントプログラム	○	○	○
	社会人入学試験(企業等推薦型・自己推薦型)		○	○	○
大学を卒業見込みおよび卒業後に大学院に進学する方を対象とした入学試験方式	一般入学試験	キャリア形成プログラム	○	○	○
	外国人留学生入学試験		○	○	—
立命館大学およびAPUに在学中の方を対象とした入学試験方式	学内進学入学試験		○	○	○
	APU特別受入入学試験		○	○	—
	飛び級入学試験		○	○	—

※1本研究科入学時点で企業・行政等の組織における3年以上の職業経験(NPO活動なども含む)を有している方(詳細は入学試験要項で確認してください)。
※2選考方法:書類選考、筆記試験(論述試験)、面接試験。ただし、一般入学試験・外国人留学生入学試験以外の入試方式では筆記試験を免除します。

科目等履修生制度 [MBA科目を1科目から受講できます]

※所定の要件を満たし、かつ3年以上の職業経験を有する満24歳以上の方が対象です。

ビジネスに関する基礎的素養をもとめる方や、戦略、人事、マーケティング、財務、M&Aなど、特定課題で実践力をもとめる方に、お勧めです。

- 科目等履修生制度とは、科目等履修生として科目を履修し、所定の要件を満たすと単位を修得できる制度です。
- 修得した単位については、20単位を限度として認定することがあります。ただし、入学時に該当科目が廃止されている場合は、単位認定できないことがあります。
- 1科目につき週1回180分×8週間(約2ヶ月)で構成され、平日・夜間(18:30－21:30)、土曜・日曜の開講につき、勤務などの都合に合わせた科目選択が可能です。※
- 出願資格や履修科目の詳細は「2023年度 経営管理研究科 科目等履修生出願手続要項」を確認してください。

※2024年度から授業時間数と時間割の変更を予定しています。詳細はP5を参照ください。

1単位につき ¥21,800

(1科目は2単位相当です。1科目¥43,600とご理解ください)

登録料:¥46,000
(但し、本学卒業生・修了生など:¥28,000)
登録料は、初回のみ(同一年度内の追加時不要)。
※2023年度実績

学費

参考:2023年度学費[標準修業年限]※1

	1年次	2年次	合計
入学金	200,000円※2	—	200,000円
授業料	1,268,600円 (春学期 634,300円+秋学期 634,300円)	1,268,600円 (春学期 634,300円+秋学期 634,300円)	2,537,200円
計	1,468,600円	1,268,600円	2,737,200円

※1 長期履修制度または早期修了制度を利用した場合の学費額については、OIC独立研究科事務室までお問い合わせください。
※2 立命館大学または立命館アジア太平洋大学の学部を卒業した者が本学大学院に入学する場合などは、入学金を徴収いたしません。対象に関する詳細は経営管理研究科ホームページをご確認ください。

奨学金制度

本研究科では、社会人学生を対象とした奨学金制度(立命館大学専門職大学院経営管理研究科奨励奨学金)を設けています。

[奨学金制度概要]

名称	募集対象	金額	給付人数	選考方法・時期
立命館大学専門職大学院 経営管理研究科奨励奨学金	経営管理研究科が実施する社会人入学試験(一般、企業等推薦型・自己推薦型)の成績上位者	《給付》 100,000円(学期) ※2年間(4学期)給付	最大20名	入学試験の成績上位者から採用内定者を選出し、合格発表時に本人に通知

※「長期履修制度の申請者」、および「国費留学生制度またはこれに類する制度により資金を得て入学を予定している者」は、この奨学金の対象とはなりません。

社会人学生を対象とした修学支援制度(※1)

● **早期修了(在学期間の短縮)制度**

本研究科では専門職大学院設置基準第16条にもとづく、早期修了(在学期間の短縮)制度を設けています。科目等履修生制度を利用して本研究科の科目の単位を2科目(4単位)以上(※2)修得されている方の場合、本研究科に入学後この制度を利用することにより修了までに必要な在学期間が2年から、1.5年に短縮することが可能になります。また、修了までに必要な授業料も1.5年分になります。

● **長期履修制度**

在学中に職業を有することにより、学修・研究時間を充分に取ることが出来ず標準修業年限で修了することが困難な場合、標準修業年限を超え、在学年限(4年)の範囲内の期間において計画的に教育課程を履修することを目的とした制度です。長期履修が許可された場合の授業料は、標準修業年限で納入する授業料総額を、長期履修が許可された年限内(在学を予定している年限)で納入していただきます。

※1 各制度の申請資格が異なりますので詳細はOIC独立研究科事務室までお問い合わせください。
※2 ただし大学卒業など、学校教育法第102条第1項の規定により専門職大学院の入学資格を有した後に修得したものに限ります。
いずれの制度も許可制(必ず認められるものではありません)。

給付金制度

※2024年度以降については再指定申請予定。詳細はホームページでお知らせします。

● **専門実践教育訓練給付金**

経営管理研究科経営管理専攻マネジメントプログラムは2021年度より「専門実践教育訓練給付制度」の対象講座として指定されています。専門実践教育訓練給付制度とは、一定の条件を満たす雇用保険の被保険者(在職者)や離職者が、厚生労働大臣の指定する専門実践教育訓練を受講し修了した場合、教育訓練施設に支払った授業料等の一部(最大112万円)を、本人に対して給付金として支給する制度です。専門実践教育訓練給付金の受給には、一定の要件を満たす必要があります。詳細については本研究科ホームページを確認の上でお近くのハローワークにお問い合わせください。

履修証明プログラム

大学等における正規の学位プログラムの他に、社会人等の者を対象とした一定のまとまりのある学習プログラム(履修証明プログラム)により、その修了者に対して法に基づく履修証明書(Certificate)を交付するものです。修了までには総時間数として、60時間以上が必要となります。

Agriculture Management Program(AMP)

本研究科では、(株)農林中金アカデミーの寄附講座として農林水産業分野の経営人材育成を通じて地域社会の発展に資することを目的として、「Agriculture Management Program」(AMP)を開設しています。
このプログラムでは、農林水産業界の激しい環境変化や障害を打開し、自然・社会に適合したイノベーターとして社会的課題を解決し、食農関連事業の発展に寄与するアグリビジネス経営人材の輩出を目指しています。

観光マネジメント履修証明プログラム

本研究科では、観光分野の教育の充実に向けて取り組んでいます。その一環として、「観光マネジメント履修証明プログラム」を開設しています。
このプログラムは、観光産業の可能性に着目し、一層の成長とイノベーションが期待される同産業の各セクターの将来を担う中核的な人材の輩出を目指すものです。受講生は、対象科目の履修を通じて、旅館・ホテルなど宿泊産業やその他サービス企業、MICE、観光振興等において経営人材として必要とされる実践的な知識を習得することができます。